

# はなの輪

広島市植物公園植物友の会

2024年10月-12月 通巻第181号



園長のおすすめ 2023年10月8日号より

## ウメモドキ *Ilex serrata* Thunb.

ウメモドキといわれる由縁は、「実や花が紅梅に似ている」ことや「葉や枝ぶりが梅に似ている」ことなどからきています。

モチノキ科モチノキ属で落葉低木。山間部の湿地や雑木林で、国内の本州から九州のほか中国にも自生します。赤い果実が特徴的で庭木、盆栽などに利用されます。開花は6月頃で、雌雄異株となります。園芸種として、白色や黄色の果実、実が一回り大きいものなどがあります。なお、リースなどに利用されるツルウメモドキは別の科(ニシキギ科)です。

(園内位置：木の実の森) [写真・文 永井 親雄]

## 園長のおすすめ

植物公園ホームページでは、園長のおすすめを定期連載中です。

見ごろの植物や最新のイベント情報も掲載しています。



<http://www.hiroshima-bot.jp/tomonokai/>



## 「人のくらしを支える『植物と油』展」について(予告)

9月14日(土)より、特別企画展「人のくらしを支える『植物と油』展」を開催します。

油をテーマにした理由は、「とにかく、植物が人の生活に必須であることを伝えたい！」から。油であれば、食用油のほか、香りを楽しむアロマオイル、化粧品やせっけん、はてはバイオディーゼルまで、生活の様々な場面を網羅できます。「SDGs」も訴えることができる・・・ということで油を取り上げることにあいなりました。

### 1 食用油をとる植物について

さて、どんな時に植物に油が含まれていることを実感するでしょうか？身近なところでは、ゴマでしょうか。胡麻和えを作るためにゴマ(種子)をすりつぶすと、良い香りとともに、ねっとりとした油がしみ出てきます。



シロゴマ

展示会では、食用に使用される菜種油やオリーブ油、ゴマ油など約10種類の植物から採れる油を紹介します。あわせて、「カカオからとる油で作るチョコレートの魅力」や「体に良い油を見分ける方法について」をテーマとした講演会を実施し、植物油への理解を深めることとしています。

### 2 広島における搾油産業

展示会に向け、広島の搾油産業の歴史についても調査しました。江戸時代、広島藩では菜種や綿を原料とする燈油製造が盛んで、藩内に3か所の油御用所(狩留家、瀬野、御城下)が設けられていました。令和6年7月にNPO狩留家(広島市安佐北区)の黒川理事長を訪ねました。狩留家は傾斜地が多く、水も豊富で、水車を回すのに最適な条件を有しています。往時は、油を搾るための水車が数多くあり、搾油産業で栄えたといえます。NPO狩留家では、



黒川理事長ご夫妻

かつての狩留家繁栄のシンボルとして、水車小屋の再現を行いました(現在は破損のため別々に保存)。水車をシンボルに、往時の狩留家の隆盛を再現したいと、現在は狩留家ナス栽培による町起こしにいそしんでおられます。



再現された風車(安佐北区狩留家町)

次に訪ねたのが西国街道・海田市ガイドの会の土本さんと狩留家郷土史会の天保さんです。広島 of 搾油産業の歴史を教えていただいた後、瀬野(広島市安芸区)の水車跡を現地の方に案内していただきました。水車の動力を利用して搾油に使われた石臼は個人宅の庭に置かれており、掘られた溝が、当時を物語っています。これらも展示会では詳しく紹介する予定です。



天保さん、土本さん、  
当園担当中原技師(左から)



搾油に使用された石臼

### 3 さいごに

この原稿を書いている時点で、準備の追い込みをしています。発行される頃には展示会が始まっています。ぜひ見に来ていただきたいと思います。

[写真・文 富澤 まり]

# 2024年10月～12月 展示会・イベント案内

秋のグリーンフェア期間中 [10/26～11/4] は入園料無料（駐車場は有料）

10/26 (土)  
～ 11/4 (月休)

## 秋のグリーン フェア2024

花と緑の講習会、コンサートやフリーマーケットなど家族で気軽に秋の植物に親しんでいただけるイベントが盛りだくさんです！！

11/24 (日)

## 広島市植物公園 写生大会

秋の植物公園で植物の絵を描きませんか？先着300名の受付で、審査（賞品あり）と受賞作品の巡回展示を予定しています。雨天中止。

11/23, 30  
12/7, 14, 21  
(毎週土曜日)

## 花と光のページェント (夜間開園)

キャンドルやイルミネーションで園内を華やかに彩るとともに植物のライトアップも行い、幻想的な雰囲気演出します。展示温室のクリスマスムード満点の装飾も必見です。クリスマスコンサートもあります。

## 展示会のご案内

薬用植物展		9/7～10/6	展示温室
特別企画展「人の暮らしを支える『植物と油』展」		9/14～12/22	展示資料館
サボテン・多肉植物展	共催：広島カクタスクラブ	10/12～10/20	展示温室
秋の山野草展	共催：広島山草同好会	10/19～10/24	屋外展示場
野生きのこ展	共催：広島きのこ同好会	10/19～10/20	展示資料館 講堂
ハンギングバスケット作品展	共催：日本ハンギングバスケット協会広島支部	10/26～11/4	大温室前
秋の洋ラン展	協力：広島洋蘭倶楽部他	10/26～11/4	展示温室
コスモスウイーク		10/26～11/9	レストラン 前花壇
キク展		10/26～11/17	屋外展示場
寒蘭展	共催：広島和蘭会	11/9～11/17	展示温室
クリスマス飾るフラワー展		11/23～12/25	展示温室

薬用植物展

ハンギングバスケット作品展

コスモスウイーク



# Event Information 2024 10-12

植物公園で開催されるイベントを紹介します

## 10月

### 草笛体験会

10月6日(日) 午後1時～3時

### みどりとむし講座 (先着100名程度)

#### 「アサギマダラ観察会」

10月14日(月祝) 午前11時～正午

### 秋の山野草実演会 (先着50名)

10月20日(日) 午後1時半～2時半

### ドレスिंगづくりワークショップ (先着20名)

10月26日(土) 午前10時半～11時半  
午後1時半～2時半

\* イベントの内容は、一部変更になる場合があります。

最新情報はホームページ・電話等でご確認ください。

\* 毎週土・日曜日・祝日 午後1時半～3時20分は、ガイドボランティアが園内を案内しています

\* 11月10日 午後1時20分～3時は、植物友の会例会を実施します(要入会、年会費無料)

## 11月

### ハンドクリームでアロマ体験

(先着30名程度、参加費1,000円)

11月2日(土)・9日(土)

午前10時～午後3時

### 洋ラン実演会 (先着20名程度)

11月4日(月休) 午後1時半～2時半

### コスモスのお花摘み (先着200名)

11月9日(土) 午後1時半～3時半

### 寒蘭実演会 (先着50名程度)

11月10日(日) 午後1時半～2時半

### 特別企画展講演会「植物油脂の栄養と機能—“体に良い油”を見分けるには？」

講師：元日清オイリオグループ(株) 中央研究所長

青山敏明氏 (先着100名程度)

11月17日(日) 午後1時半～3時半

## 職員による植物うんちく語り

(10月～12月の予定)

“見ごろの植物・展示会”のとおきの話を1時間程度、職員が熱く語ります。各回午前11時から、集合場所は展示資料館です。

開催日	曜日	内容	形式
10月5日	土	特別企画展 人の暮らしを支える「植物と油」展	座学 (定員100名程度)
10月22日	火	秋の草花花壇	現地 (定員40名程度)
11月9日	土	秋を彩るバラ	現地 (定員40名程度)
11月26日	火	晩秋の植物	現地 (定員40名程度)
12月1日	日	五感で愉しむ植物学+植物カルタ	座学 (定員100名程度)
12月24日	火	冬の温室散策	現地 (定員40名程度)

年間予定はこちら



## ◇募集◇

※往復ハガキに催し名・住所・氏名・電話番号(・希望日)を記入してお申込みください。植物公園のホームページ(Web申込のQRコード)からもお申込みいただけます

催し名・日程	内容等	定員	締切	Web申込
クリスマスリース作り講習会 11月16日(土) 午後1時半～3時	クリスマスに玄関や室内を飾る壁掛けを制作します。 材料費：2,000円	30名 (抽選)	10月23日 【必着】	
冬のガーデニング講座 11月23日(土祝) 午後1時半～3時半	正月の玄関にも飾れる初冬のハンギングバスケットを作ります。 参加費：3,500円	20名 (抽選)	10月30日 【必着】	

秋バラ Autumn Roses



アイスバーグ



マイグラニー



聖火

原種やオールドローズと呼ばれる古い品種は春の一季咲きですが、現代バラ（モダンローズ）の多くは四季咲きの性質があり、真冬を除いて花をつけますが、一番の見頃は5月と11月です。秋のバラは小ぶりで花数も少なくなりますが、花色や香りが濃くなり、一輪が長く楽しめます。

クリスマスに彩る植物 Plants for the Christmas season



ポインセチア



クリスマスカクタス



クリスマスホーリー



シクラメン



クリスマスベゴニア



クリスマスローズ

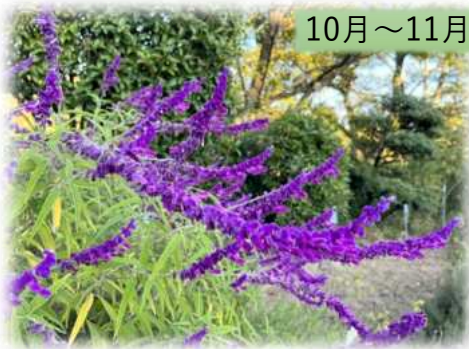
12月になると、花屋の店先が「赤・緑・白」のクリスマスカラーで彩られます。日本では、賑やかな季節のイベントとして扱われますが、西洋ではクリスマスと植物は生活や地域の風習と密接に結びついています。例えば、ツリーに用いられるモミの木は、冬が厳しい欧州でも一年中緑がある常緑樹を用いることで、永遠の命のシンボルを示しています。

# 10月～12月に見ごろを迎える植物



10月頃

ダリア  
(カスケード・ログガーデン)



10月～11月

アメジストセージ  
(花の進化園ほか)



通年

アリストロキア サルバドレンシス  
(大温室)



10月頃

トックリキワタ  
(大温室)



10月中旬～11月

ネリネ  
(サボテン温室)



10月下旬

モクキリン  
(サボテン温室)



10月下旬～  
11月初旬

バラ 'グラナダ'  
(バラ園)



10月～  
11月

ツメレンゲ  
(ロックガーデン)



10月～11月

リュウノウギク  
(里山の野草園)



11月～12月  
・4月

三波川冬桜  
(芝生広場)



10月～11月

チャノキ  
(日本庭園周辺)



10月中旬～  
11月初旬

コスモス 'センセーション'  
(レストラン前花壇)

秋が深まるにつれ、日の長さが短くなります。秋に咲く多くの植物(例: イネやキクなど)は、短日植物と呼ばれ、日の当たる時間(日長)がある一定時間を下回ると花を咲かせる性質を持っています。キクは本来は秋咲きですが、生産農家では電照を当てて開花を遅らせ、正月や初春にも出荷できるようにしています。[写真・文: 久保 晴盛]

# Plant Doctor Q&A

植物公園では、緑の相談窓口を設置しています。  
家庭園芸のお困りごと、何でもご相談ください。  
[☎082-922-3600 金曜を除く午後1時～4時]

**Q. 夏越ししたフクシアの花が以前より小さい気がします。弱ってしまったのでしょうか？**

A. ご心配のとおり、弱っていると思います。フクシアは冷涼な気候であるアンデス高地に自生しています。そのため、日本の湿度が高く暑い夏に適しておらず、たとえ夏を枯れることなく越せたとしても少なからずダメージは受けています。

フクシアの夏越しには、春のうちに挿し木をして若い苗にする、あるいは夏の前に小さく刈り込んで暑い時期を乗り越えさせる方法がありますので、参考にしてください。

今回の場合、花が小さくなっただけで株に元気があるようであれば、しばらくすればまた大きな花が咲くようになります。しかし、株全体としては回復にかなり時間がかかるので、新しい枝が伸びたら早急に挿し木をとって株を作り直すのが良いでしょう。

フクシアは耐暑性のある品種であれば、木陰で吊鉢にすることで夏でも花を楽しむことができます。

しかし、近年の夏は暑すぎるので耐暑性のある品種でも花のサイズが半分以下になってしまったり、弱ってそのまま枯れてしまったりすることもあります。そのような場合は、前述の対応を試してみてください。

[文 太田 美咲]

**Q. バラの蕾に小さな穴が空けられて、綺麗に花が咲きません。どうしたらよいのでしょうか？**

A. おそらく、オオタバコガの幼虫による蕾の食害が原因だと思われます。オオタバコガは小型のガで、幼虫が多くの農作物を食害することで有名です。バラ栽培においては、オオタバコガは蕾や花を食害します。初夏から秋にかけて成虫が発生し、特に秋に食害を多く見かけます。

オオタバコガの幼虫に食害された蕾は、蕾のまま枯れ落ちるか、花弁に穴の空いた観賞価値の低い花を咲かせます。一度蕾に穿孔されてしまうと、助ける手立てはありません。そのため、蕾が食害される前に薬剤散布し、防除することが重要です。なお、スミチオンやオルトランなどの登録が古い農薬には薬剤耐性を持つことが知られているため、アフーム乳剤など

適用のある薬剤を選んで、適切に散布しましょう。

オオタバコガの幼虫は、朝は蕾や花の表面にいたことが多く、朝に薬剤散布を行うと効果的です。蕾に産み付けられた卵は小さいですが、白色で見つけやすいので、指やピンセットなどで取り除きます。また、幼虫が蕾に穿孔したとしても、食害された蕾ごとに取り除くことで、他の蕾への被害の拡大を防止できます。



写真 バラのつぼみを食害するオオタバコガ幼虫

[写真・文 佐藤 祐輔]

**Q. 菜種油はアブラナから採れますが、どうして植物は油をつくるのですか？**

A. 植物は種子や果実に油をたくわえますが、たくわえる場所によってその目的が変わります。

アブラナやゴマなど、種子に油をたくわえる場合、その油は、発芽する際のエネルギー源になります。イネやオオムギなどは、油ではなくデンプンをたくわえますが、油の方が1グラム当たりのエネルギー量が多いため、小さなスペースに貯蔵できるメリットがあります。ただし、油は糖質と異なり、エネルギーとして体内で利用できる物質にするまでに多くの工程を経る必要があります。

一方、果実に油をたくわえる植物の目的は、鳥などによる種子の散布です。油からは多くのエネルギーを取り出すことができるので、動物はオリーブやアブラヤシなどの油を多く含む果実を好んで食べます。中の種子は消化されないため、糞として排出することで散布されます。

[文 中原 祥之]

### 種子のへそ

植物の種子をまくとき、種子の「へそ」を目印にするとよいと聞いたことはありませんか？ 今回は、植物の種子の「へそ」を観察してみたいと思います。

「へそ」は砕けた表現のようですがれっきとした植物学用語で、小学館の日本大百科全書によると、「胚珠の基部である珠柄が子房内の胎座から離れて落ちた痕跡」と説明されています。専門用語連発でわかりにくいですが、要するに哺乳動物のへそ（お母さんとつながって栄養をもらっていた部分）のようなものです。

私はかつて先輩から「アサガオの種子をまく時は、へその裏側をやすりでこすって皮を薄くし、へそが下向きになるようにまく」と教わりました（図1）。こうすると種子の発芽がスムーズになるとのことでした。当時はどうしてそうなのか深く考えたことはありませんでしたが、アサガオの種子を調べると、やすりでこする場所の近くに将来の主根の先端があることが分かりました。教わった通りにすれば、薄くなった種皮から発根しやすくなり、かつ種子の向きが整って根が土にもぐりやすくなるということのようです。

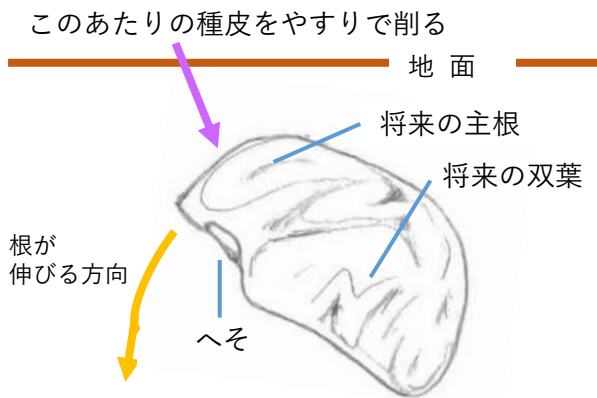


図1 アサガオの種子のまき方

下側のとがった部分がへそにあたります。これらはへその近辺から発根するので、種子をまく時は、へそを下向きにして土に埋めるようにします。

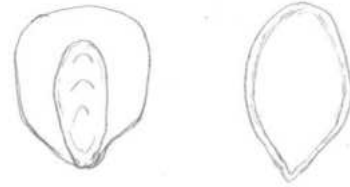


図2 トウモロコシ（左）とカボチャ（右）の種子  
へそは下向きのとがった所

最後に、フウセンカズラの種子を見てみましょう。フウセンカズラは、風船状の軽やかな果実や涼しげな葉の様子から、夏の風物詩として人気です。しかしその一番のチャームポイントは、種子のハート模様ではないでしょうか。実はこのハート模様は、フウセンカズラの種子のへそです。種子の大きさからすればずいぶん大きなへそです。ちなみに種子の発芽は、ハート模様がかぼんだところのすぐ上の部分から始まります。

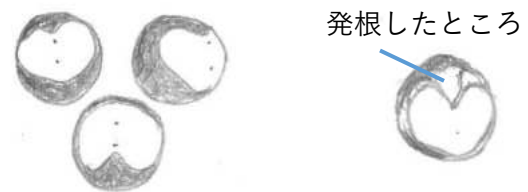


図3 フウセンカズラ 種子3粒（左）と発根の様子（右）

このように、植物の種類が違えば種子のへその位置も形も違うし、種子の発芽の位置も違ってきます。しかし植物の種類が同じであれば、へその位置も発芽の位置も、だいたい決まっています。したがって、植物の種類によっては、へそを目印に種まきすると具合がよいのです。

実りの秋、種子を収穫しながらへその位置を観察し、来シーズンの種まきに役立ててみるのはいかがでしょうか？

[図・文 井上 尚子]



広島市佐伯区倉重三丁目495

☎ 082-922-3600 FAX 082-923-6100

- 開園時間 午前9時～午後4時半（入園は4時まで）
- 休園日 毎週金曜日
- 入園料 大人510円、高校生および65歳以上170円、中学生以下無料
- 駐車料 軽・普通自動車450円、中・大型車1,400円

